

リスクの少ないソフト部門から 本業、そしてレンタル工場建設へ

株式会社玉吉製作所

ベトナムからの研修生受け入れが海外進出のスタート

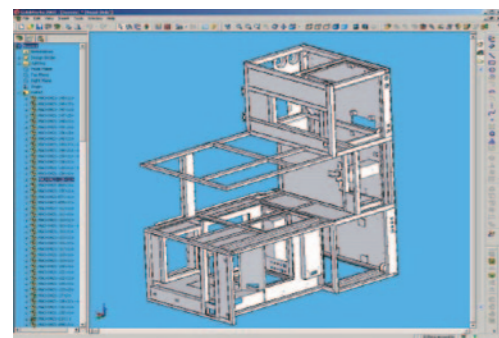
株式会社玉吉製作所は、静岡県富士宮市と栃木県大田原市に半導体製造装置・医療機器を主とした精密板金部品の加工及び組立並びに OEM 製品の設計・開発・製造を行っている。

通常の板金加工全般に加え、特に SUS とアルミの無酸化レーザー切断及び溶接、パイプのレーザー切断と穴明け、製缶フレームの溶接組立後の無切削化（精密フレーム）等、高度な板金加工に取り組んでいる。

これら高度な板金技術には、急速に進化する CAD / CAM が必要不可欠で、当社は全てのデータを 3D 化して CAD / CAM 一環生産を進めている。

製造部門にベトナムからの研修生を受け入れたところから海外進出の計画がスタートするが、このソフト開発部門があったことが海外進出の大きなターニングポイントとなった。

現地訪問を通じて、先代社長が過ごした日本の成長期を今のベトナムに重ね合わせる事が出来たと、現在の吉田社長は語る。ベトナム人の持つ親しみ易さ、素朴さ、日本への親近感など、全て肌が合った上に、今のスタッフとの貴重な出会いが進出への大きな影響を与えたのは間違い無い。



三次元設計のサンプル

本業より三次元設計部門の進出を先行

手探りの中、本業の板金加工で進出するリスクを避け、2005年4月にこの「三次元設計」を行う会社を独资で立ち上げた。資本金は少し多めの50,000米ドルであった。



現地法人設立式典の様子

仕事は100%日本の親会社から発注されるので、営業的に苦労は無く、ベトナムでの会社設立・運営の苦労が大半であった。会社設立時の行政の対応は悪かったため無駄な時間も多く費やされた。会計・法律・制度の違いにも悩まされた。

そんな折、2005年8月に中小機構のベトナム人現地アドバイザーのアドバイスを初めて受け、その後も引き続き、アドバイザーから助言を得ている。特に会計では、会計制度そのものに加えて税務を、労務に関しては就業規則の整備を始め、労使間問題に至らない為のアドバイスなどを受けたことで、会社運営がスムーズに行えるようになった。

本業とレンタル工場の運営でモデルケースに

当社は、製造部門の進出だけでなく、他社との事業連携を目指し、アドバイザーの助言を得ながら、同じ工場内に敷地を確保し、レンタル工場も建設、別会社（Fuji Precision Co. Ltd.）を2006年12月に立ち上げた。目指したのは、これらレンタル工場に入居される中小企業との連携で、日本からベトナムに進出する中小企業のモデルケースにと吉田社長の意気込みは凄いものであった。当社自身も2007年9月には、同じ敷地内で操業を開始した。

【日本本社】

所在地 静岡県富士宮市
代表者名 代表取締役社長 吉田 弘宣
業種 精密器具製造
事業内容 精密板金部品の加工および組み立て
商品内容 板金部品
創業年 1964年
従業員数 70名
資本金 1,000万円
年間売上高 9億円

【海外現地法人】

企業名 Tamayoshi Vietnam Co., Ltd
所在地 ベトナム
地域 ハノイ
事業内容 三次元設計・板金加工業
創業年 2005年
従業員数 25名
資本金 162,000USD
投資形態 独資
年間売上高 45万USD

<2010年8月現在>



会社内での設計作業

ベトナム人の能力は日本人以上か

当初は、少人数なので問題は無いが、従業員数が増えた際、中間管理職の役割が機能するかどうかを吉田社長は一番懸念された。これは、総じて、ベトナム人が企業で働く経験が不足していることに起因しており、時間を掛けて解決して行く問題と捉えている。実際に、接するベトナム人はみな向上心が強く、ポイントをアドバイスすれば技能レベルが著しくアップするため、会社経営についてもきちんと教育して行けば、日本人以上の能力を発揮するのはと期待している。

勿論、日常では、従業員は時間にルーズで、備品についても公私の区別が希薄なのが現状である。



Tamayoshi Vietnam Co.,Ltdの外観



ドイツ製レーザー切断機

インターネットの整備だけでなく、様々なインフラの整備が甚だしく遅れているベトナムだが、優秀で安価な労働力を始め、何よりも日本に無い（失われつつある）活気を感じる国で、他の日本の中小企業の方とベトナムの発展と一緒に取り組むのが吉田社長の夢である。

その後の展開

相変わらず、ソフト関連の仕事は親会社(株)玉吉製作所よりの受注が100%だが、2010年8月にはドイツ製レーザー切断機を導入され、既に、ベトナム国内向け板金加工売上比率90%の増大を目論んでいる。

《経営支援専門員 中村大二郎》

専門員の視点

中小企業にとって、大きな設備投資を伴う海外進出は、金銭面だけでなく、人材面でも、大変なリスクを抱える事になる。しかし、当社の場合、このリスクを回避して、日本人の常駐を必要としないソフト開発会社を設立し、早期に現地基盤を築き、レンタル工場を建設しながら、自社工場も立ち上げた。ベトナム国内での板金仕事も、建設ブームに乗り、順調に推移しているとのことなので、益々の発展が期待でき、中小企業の海外進出に大いに参考になるケースと確信する。